

一関市長定例記者会見

日時：令和6年3月11日（月）

午前11時から正午まで

場所：特別会議室

○市長発表事項

生成A I の業務への活用について

○その他

生成A I の業務への活用について

本市では、業務の効率化と市民サービスの向上を図るため、生成A I を業務に活用していくこととし、第一弾の取組として、全国の自治体で初となる生成A I（ChatGPT4.0）を使った会話型A I チャットボットサービスを令和6年3月15日から開始する。

1 生成A I の業務活用について

本市では、本年度、生成A I に関するプロジェクトチームを立ち上げ、業務等への活用を検討してきたが、生成A I の活用は様々な業務に活用できるものと判断し、利用するに当たってのルール（一関市生成A I に関する利用ガイドライン）を策定した上で業務に活用していくこととした。

(1) 業務に活用する生成A I の種類

業務に活用することを想定している生成A I は、

- ・ 地方公共団体間で使用する閉域的なネットワークであるL G W A N上で利用できる生成A I
- ・ インターネット環境上で利用する生成A I

である。

(2) 情報セキュリティの保護

インターネット環境上で利用する生成A I は、市民サービスの向上や庁内業務の効率化が期待される。

一方で、情報漏えいなどの懸念が指摘されているが、

- ・ 業務に関係ないサイトへのアクセスを制限
- ・ インターネット上にデータ保存や共有する環境を設けない
- ・ 私的なアカウントでのログインを禁止
- ・ 一関市情報公開条例に定める不開示情報の入力を禁止

などの対策を取る。

2 全国の自治体で初の会話型A I チャットボットサービス

(1) サービスの概要

第一弾として導入する会話型A I チャットボットサービスは、24 時間 365 日いつでも市民などからの問い合わせに対応できるため、生活様式の変化や働き方の多様化が進む中において、市民は市役所の開庁時間以外においても必要な情報を得ることができる。

また、外国人観光客や在住外国人の方々などからの日本語以外の言語での問い合わせに対しても対応が可能である。

(2) システムの特徴

普及しているチャットボット（自動会話プログラム）は、職員などが想定される質問と、その回答を事前に登録して会話するプログラムであるのに対し、本市が今回導入する生成A I チャットボットは、質問者から寄せられた質問内容を生成A I が分析して、与えられた情報（市のホームページ）の中から適切な回答を提供するプログラムとなっている。

さらに、人間と同じように言葉の意味や文脈を理解して回答する機能を持っており、自然な会話形式でやりとりすることが可能となっている。

なお、一連の会話が終了すると、利用者が入力した内容や会話の内容を生成A I が記憶しない設定としている。

(3) 運用開始日

3月15日（金）

(4) 搭載場所

市のホームページ上に機能を搭載

(5) 導入事業者

合同会社 イージーダイアログ
E a s y D i a l o g

（所在地：神奈川県横浜市、代表社員ノイマン・クリストフ）

(6) 費用

システム導入 12,550,000 円

※財源 デジタル田園都市国家構想交付金（デジタル実装タイプ）

3 特記事項

- ・ 会話型A Iチャットボットに搭載されている生成A Iは、「一関市生成A Iに関する利用ガイドライン」で定める機能要件を満たしたものである。
- ・ 令和6年度は、チャットG P Tの庁内利用や、会話型A Iチャットボットの機能を応用した音声サービスの実現に向けて取り組む予定としている。